



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp宛にお送りください。折り返し、受領の連絡をいたします。

人事公募

東京大学宇宙線研究所 教授

1. 職種及び公募人員：教授1名
2. 職務内容（専門分野）等：東京大学宇宙線研究所の高エネルギー宇宙線研究部門に所属し、高エネルギーガンマ線宇宙物理学の観測的研究を行う方を募集いたします。本研究所では高エネルギーガンマ線天文学の飛躍的な発展へむけて、CTA国際共同研究のもとCTA大口径望遠鏡4基からなるチェレンコフ望遠鏡アレイをスペイン領カナリ諸島ラパルマに建設中です。この装置は、完成後20年以上の運用を予定しています。これら望遠鏡の建設を主導し、運用、運営をCTA国際天文台と協力して行うこと、さらにはCTA-Japanの組織運営において中心的な役割を果たすことを期待します。宇宙線物理、高エネルギー宇宙物理、宇宙素粒子物理において多くの科学成果をあげていく、強い意欲とリーダーシップをもった方を求めます。
3. 勤務地：東京大学宇宙線研究所（千葉県柏市）
4. 着任時期：2022年3月1日以降なるべく早い時期
5. 応募資格：博士号をもつこと
6. 任期：なし
7. 待遇：給与は本学の規定に基づき経歴等により決定します。保険は文部科学省共済組合と雇用保険に加入します。
8. 就業時間：専門業務型裁量労働制により、1日あたり7時間45分・週5日勤務したものとみなされます。
9. 休日：土日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
10. 休暇：年次有給休暇、特別休暇等
11. 提出書類等：以下（1）から（5）までの書類を、e-mailに添付（電子ファイル）で提出してください。応募書類のファイル形式はpdfとします。（e-mailによる提出に対しては、受信した旨の返

信をしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください。）

- （1）履歴書
 - （2）研究歴（A4判で3頁程度）
 - （3）着任後の研究計画（A4判で3頁程度）
 - （4）業績リスト（論文リスト、研究発表リスト、外部資金獲得状況等）及び主要論文別刷（5編以内）。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。
 - （5）着任可能時期
12. 応募締切：2021年7月19日（月）正午必着。
 13. 選考：選考は、書類選考の後、面接を受けていただくことを原則とします。（面接を受けていただく方には詳細を連絡します）。
 14. その他：「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募、さらには外国籍の研究者を歓迎します。
 15. 送付先：東京大学宇宙線研究所総務係
e-mail: application_at_icrr.u-tokyo.ac.jp
（mailを送信する際は_at_を@に直してください）。メールの件名に公募「ICRR2021-03」を明記してください。
 16. 問い合わせ先：東京大学宇宙線研究所 手嶋 政廣
e-mail: mteshima_at_icrr.u-tokyo.ac.jp
（mailを送信する際は_at_を@に直してください）。

東京大学宇宙線研究所 教授

1. 職種及び公募人員：教授1名
2. 職務内容（専門分野）等：東京大学宇宙線研究所の高エネルギー宇宙線研究部門に所属し、最高エネルギー宇宙線の観測的研究をリーダーシップをもって行っていただける方を募集します。現在本研究所で進めるテレスコープアレイ実験およびその拡張実験の観測装置の維持・運用、観測的研究において中核的な役割を担っていただきます。また高エネルギー宇宙線研究部門の将来計画の策定にあたって中心的な役割を担うことを期待します。

3. 勤務地：東京大学宇宙線研究所（千葉県柏市）
4. 着任時期：2022年3月1日以降なるべく早い時期
5. 応募資格：博士号をもつこと
6. 任期：なし
7. 待遇：給与は本学の規定に基づき経歴等により決定します。保険は文部科学省共済組合と雇用保険に加入します。
8. 就業時間：専門業務型裁量労働制により、1日あたり7時間45分・週5日勤務したものとみなされます。
9. 休日：土日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）
10. 休暇：年次有給休暇、特別休暇 等
11. 提出書類等：以下（1）から（5）までの書類を、e-mailに添付（電子ファイル）で提出してください。応募書類のファイル形式はpdfとします。（e-mailによる提出に対しては、受信した旨の返信をしますので、必ず当方からの返信の有無を確認してください）。
 - （1）履歴書
 - （2）研究歴（A4判で3頁程度）
 - （3）着任後の研究計画（A4判で3頁程度）
 - （4）業績リスト（論文リスト、研究発表リスト、外部資金獲得状況等）、及び主要論文別刷（5編以内）。提出する論文については論文リストに印を付け、一目でわかるようにすること。
 - （5）着任可能時期
12. 応募締切：2021年7月19日（月）正午必着。
13. 選考：選考委員会により書類選考の後、面接を受けていただくことを原則とします。（面接を受けていただく方には詳細を連絡します）。
14. その他：「東京大学男女共同参画加速のための宣言」に基づき、女性の応募、さらには外国籍の研究者を歓迎します。
15. 送付先：東京大学宇宙線研究所総務係
e-mail: application_at_icrr.u-tokyo.ac.jp
（mailを送信する際は_at_を@に直してください）。メールの件名に公募「ICRR2021-04」を明記してください。
16. 問い合わせ先：東京大学宇宙線研究所 佐川 宏行
e-mail: hsagawa_at_icrr.u-tokyo.ac.jp
（mailを送信する際は_at_を@に直してください）。

法政大学理工学部

教授、准教授または専任講師

1. 募集人員（ポスト・人数など）：教授、准教授または専任講師1名
2. （1）所属部門・所属講座：法政大学理工学部創生科学科
（2）勤務地：〒184-8584 東京都小金井市梶野町3-7-2
3. 専門分野：天文学、物理学
4. 職務内容：理工学部創生科学科および大学院理工学研究科システム理工学専攻（創生科学系）の講義・実験・学位論文指導、および学科・学部・大学運営に関わる学務
5. 担当科目：専門分野および、物理学基礎III、計測単位と標準、創生科学基礎実験II、創生科学実験I, II, PBL, 卒業研究プロジェクトI, II, III, 卒業論文等
6. （1）着任時期：2022年4月1日
（2）任期：任期なし
7. 応募資格：
 - （1）博士の学位または外国のPh.D.を有する方、あるいは、着任時に学位取得済みの方
 - （2）本学の教育方針、教育業務を理解し、教育・研究への熱意と学科運営への意欲があり、積極的かつ協調的に協働できる方
 - （3）専門分野における十分な知識・能力を有し、先端的な研究や国際的な活躍を推進できる方
 - （4）国籍は問わないが、十分な日本語能力を有する方
 - （5）私立大学の教育に理解のある方
8. 提出書類：（1）本学所定の履歴書（写真貼付、高校卒業以降の学歴、連絡先にはe-mailアドレスを記入）、（2）本学所定の研究業績書（査読付き学術論文、著書、国際会議論文、特許などを区別して記載）、（3）研究業績書記載の主たる業績5編のコピー、（4）研究経歴・研究概要（1000字程度、A4判1ページ）、（5）着任後の研究計画および教育・研究に対する抱負（1000字程度、A4判1ページ）、（6）照会可能な方2名の氏名と連絡先（所属・電話番号・e-mailアドレス）
※本学所定の履歴書・研究業績書については、次のURLからダウンロードしてください。
http://www.hosei.ac.jp/saiyo/rikoh_bosyu.html
9. 応募締切・受付期間：2021年8月10日（火）
10. （1）提出先：JREC-IN Portal「Web応募」

https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekJorDetail?fn=3&id=D121051190&ln_jor=0

(2) 問合せ先: 〒184-8584 東京都 小金井市梶野町 3-7-2

法政大学理工学部創生科学科 主任 松尾由賀利
e-mail: to_dept_chair@a-science.k.hosei.ac.jp

なお、メールのタイトルには、「物理系公募WG」を入れてください。

電話: 042-387-6118 (創生科学科事務室)

11. 応募上の注意: 提出書類 (1)~(6) の書類一式をデジタル化したものを1つのPDFにまとめてJREC-IN Portalの「Web応募」機能を用いて応募してください。なお、最終選考段階で履歴書等の原本を郵送して頂く場合があります。
12. その他 (待遇など)
平均年収: 約1350万円 (2019年度)

人事公募結果

京都大学大学院理学研究科附属天文台 教授

1. 掲載号: 2021年1月号 (第114巻第1号)
2. 結果 (前所属): 横山央明 (東京大学 大学院理学系研究科 地球惑星科学専攻)
3. 着任次期: 2021年5月1日

研究助成

公益財団法人稲盛財団 2022年度稲盛研究助成

真の学問が育つためには多様性と独創性が大切だと考えます。

稲盛研究助成は独創的な研究を行う多様な研究者に対して、1件100万円を助成し、より多くのアイデアの実現可能性を検証する機会を提供します。

本研究助成募集に関する詳細は募集要項にてご確認ください。

稲盛研究助成ウェブサイト: https://www.inamori-f.or.jp/inamori_grants

1. 研究分野
・自然科学系 ・人文・社会科学系
2. 申請資格

自然科学系は2021年4月1日時点で40歳以下、人文・社会科学系は50歳以下で、稲盛財団より

募集案内を送付した大学・機関に常勤で正式に雇用されている助教相当以上、主体的に研究を行っている方

3. 募集期間
2021年7月1日 (木) ~ 2021年9月13日 (月)
4. 申請方法
所定のwebサイトを通じて申請
5. 金額・件数
1件100万円を自然科学系40件、人文・社会科学系10件に助成
6. 問い合わせ先
公益財団法人稲盛財団 助成部
Tel: 075-746-2543
e-mail: grants@inamori-f.or.jp

研究会・集会

国立天文台野辺山宇宙電波観測所 「電波天文観測実習」(学部学生向け)の 参加者募集

国立天文台野辺山宇宙電波観測所では、45m電波望遠鏡を使った「電波天文観測実習」を行います。当観測所は、45m電波望遠鏡を用いて多数の星間分子の発見、原始惑星系ガス円盤の検出、銀河中心にある巨大質量ブラックホールの発見など数多くの重要な研究成果をあげています。

この「電波天文観測実習」は、最先端研究の現場に携わる研究者の指導のもと、天文学に関心をもつ大学生に研究の最前線で活躍中の45m望遠鏡を使った観測実習を通して、電波天文学の実際に触れてもらうことを目的としています。参加者は普段研究者が行っている45m望遠鏡の操作、データ取得・解析、結果のまとめを体験します。特に専門知識は必要ありませんが、大学で物理実験を経験していることが望ましいです。関心をお持ちの多くの方のご応募をお待ちしています。

なお、今回の実習は国立天文台三鷹からの遠隔観測で実施しますが、最終日には野辺山宇宙電波観測所への見学ツアーを予定しています。

1. 開催日程: 2021年9月27日 (月) 13:30~10月1日 (金) 17:00 (4泊5日)
2. 実施方法: 国立天文台三鷹からの遠隔観測
3. 場所: 国立天文台三鷹キャンパス (JR中央線武蔵境駅からバス15分)
4. 定員: 4名
5. 対象: 大学の理科系学部 (教育学部の理科系も含む) に属する学生 (1~4年生)

6. 費用：旅費・滞在費がサポートされる可能性があります
7. 応募方法：住所、氏名（ふりがな）、所属大学および学部・学科、学年、生年月日、年齢、性別、電話番号、e-mailアドレス（持っている場合）を明記の上、以下の(1)～(4)に回答し、8月4日(水)必着で下記の応募先まで送付してください。なお、送付された資料は返送いたしません。
 - (1) 大学で物理実験の経験がありますか？
 - (2) (1)で「はい」と回答された場合、一番印象に残った実験は何ですか？ どのよう点で印象に残ったのですか？
 - (3) あなたが持っている天文学への想い・イメージについて何でも結構ですでお書きください（600字以内）
 - (4) 実習に参加希望の理由は何ですか？（600字以内）
8. 選考結果：8月初旬頃、郵便で発送 ※7の住所以外への発送を希望する場合は発送先を明記のこと
9. 施設見学：最終日の10月1日(金)に野辺山宇宙電波観測所への見学ツアーを予定しています。
10. 特記事項：新型コロナウイルス感染状況によっては中止となる場合があります。
 応募先 〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山462-2
 国立天文台野辺山宇宙電波観測所「観測実習係」
 ※封筒には「観測実習応募書類在中」と朱書してください
 問い合わせ先
 国立天文台野辺山宇宙電波観測所 梅本智文
 umemoto.tomofumi@nao.ac.jp
 ウェブサイト
<https://www.nro.nao.ac.jp/~nro45mrt/html/misc/45school.html>

国立天文台野辺山宇宙電波観測所 「電波天文観測実習」(大学研究室向け)

国立天文台野辺山宇宙電波観測所では、一般の大学の学部学生を対象とした「電波天文観測実習」を1998年より実施しておりますが、大学の研究室による実験・実習として45 m電波望遠鏡を使い、電波天文学の実際に触れてもらうために、大学の研究室を対象とした「電波天文観測実習」(大学研究室向け)を広く公募することにしました。これは大学研究室の教官が応募し、実習指導するものです。

1. 場所：国立天文台野辺山宇宙電波観測所（JR小海線野辺山駅から徒歩40分）
2. 件数：3件まで。ただし複数大学のグループとしての応募も可とする。
3. 資格：大学等の研究室の教官のみ応募可能
4. 日数：3日まで（観測棟を使用できるのは金曜日16時から月曜日9時まで）
5. 時期：2021年9月24日(金)～27日(月)、10月1日(金)～4日(月)、10月8日(金)～11日(月)、10月15日(金)～18日(月)のいずれか。
6. 人数：現地で実施する場合は、1件あたり教官・チューターも含め最大6名まで。
 多人数の場合は三鷹や大学等からのリモート観測で実施してください。
 国立天文台三鷹キャンパス（JR中央線武蔵境駅からバス15分）
7. 受信機：H22受信機とH40受信機のみ
8. 要件：
 - ・最低教官1名の参加を義務とします。
 - ・チューターは自分たちで用意すること。過去3年以内に野辺山での観測（実習も含む）の経験がある教官もしくはポスドクが1名以上いること。
 - ・観測は、野辺山でのオンサイトまたは国立天文台三鷹や大学等からによるリモート観測となります。オンサイトとリモートの併用は可能です。
 - ・夜間の観測は必ず2名以上で実施すること。
 - ・観測指示書作成や観測だけでなく、トラブル対応についても自分たちで行うこと。
 - ・旅費、宿泊、食事、送迎は観測所では行いません。各自でホテルやレンタカーの手配をお願いします。
 - ・保険等は自前をお願いします。
9. 申込：第一、第二希望の時期を明記し、実習の目的、実習計画、技術的要求などを含めた観測提案書（日本語）を、ホームページ上のオンライン提案書フォームよりお送りください。
10. 締切：7月21日(水)15時(日本時間)
11. 審査：応募件数が多い場合には抽選で決めさせていただきます。
12. 選考結果：7月下旬に電子メールにより結果をお知らせ致します。
13. 特記事項：新型コロナウイルス感染状況によっては中止となる場合があります。
 問い合わせ先
 国立天文台野辺山宇宙電波観測所 梅本智文
 umemoto.tomofumi@nao.ac.jp

ウェブサイト

https://www.nro.nao.ac.jp/~nro45mrt/html/misc/45sch_lab.html

会務案内

2022年度国内研修支援金(旧内地留学奨学金)の希望者の募集

国内研修支援金は、日本国内の大学や天文台などの研究機関で研究者の指導を受けて研究活動を行う際の消耗品・旅費等の経費の支援をするものです。

日本天文学会会員でアマチュア天文研究者、学校の教員、科学館・プラネタリウム・公共天文台などの社会教育施設の職員およびこれらを退職されたシニアの研究者が主な対象です。学生の応募も可能です。

過去の支援金(旧奨学金)の対象となった研究テーマは、学会ホームページの学会の活動から研究・旅費助成⇒国内研修支援金⇒参考:国内研修支援金受給者一覧のボタンで見ることができます。

(<https://www.asj.or.jp/jp/activities/expenses/kensyu/recipients/>)に掲載されています。

なお、研究内容にふさわしい機関や指導者がわからない場合は、早めに国内研修支援金選考委員長にご相談ください。多くの方々の応募をお待ちしています。

募集要項

応募資格: 応募時点で日本天文学会会員であること(内規第3条)。

採択数: 若干名

研修期間: 2022年4月から2023年3月までの12カ月間のうち希望する期間。受入研究機関、指導教員(受入研究者)と相談して決定してください。研究終了後、2カ月以内に研究報告書の提出をお願いいたします。

支給額: 25万円以下。支給は2022年4月を予定。

申込み: 応募申請書に必要な事項を記入し、指導教員の捺印とコメントを得たうえ、〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内日本天文学会事務長あてに郵送または電子ファイルを jimucho@asj.or.jp あてにメール送付してください。

応募締切: 2021年8月31日(火) 必着。

審査: 国内研修支援金選考委員会(内規第5条)で審査のうえ、決定し、10月中旬に通知します。

採択された場合: 研修終了後には研修成果報告書を必ず書いて提出してください。

応募用紙: 日本天文学会事務所にあります。申請書の書き方例もありますので、事務所に請求ください。学会ホームページの(「研究・旅費助成」の「国内研修支援金」のページ中 (<https://www.asj.or.jp/jp/activities/expenses/kensyu/>))、募集と応募申請の項目からダウンロードできます。なお、日本天文学会会員名簿の巻末に国内研修支援金に関する内規があります。

ご相談・問合せ先: 国内研修支援金選考委員長
内藤博之

e-mail: naito@nayoro-obs.jp

編集委員会より

ご挨拶

今期の編集委員長という大役を仰せつかりました。前松田委員長の作られた和やかな雰囲気を引き継ぎつつ、著者・読者・編集委員ほか月報に関わる全ての皆さまに、「月報があって良かったなあ」と感じていただけのように務めてまいりたいと思います。専門は近傍銀河の電波観測ですが、月報を通じて視野が広がったような気がしています。委員長として、その恩返しのできれば、と思っています。

江草英実(東京大学)

二期目に入りました。専門は超巨大ブラックホールの観測です。2年間やってやっと少し流れが見えてきたという感じです。残りの2年は流れの解像度を上げてみたり、自分でも流れを作れたらいいなと思っています。

市川幸平(東北大学)

二期目として引き続き編集委員を務めさせていただきます。一期目を振り返ると専門とする太陽や太陽風に加えて幅広い記事を担当させていただき、私自身も大変勉強になりました。執筆者・読者の皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

岩井一正(名古屋大学)

今期から編集委員を務めることになりました岩崎です。主な専門分野は星形成に関係する星間媒質の進化です。様々な分野の方々とその研究を知ることができ

る貴重な機会として、天文月報を毎号楽しく拝読しておりました。これからは編集委員として、魅力ある天文月報の発行に貢献できるよう力を尽くしたいと思いますので、どうぞよろしくお祈りいたします。

岩崎一成 (国立天文台)

編集委員2期目になります小高です。1期目はいろいろな興味深い記事を担当させていただき、大変勉強になりました。専門分野はブラックホールや中性子星といった降着天体の観測とX線・ガンマ線の装置開発です。引き続きどうぞよろしくお祈りいたします。

小高裕和 (東京大学)

このたび編集委員を務めることになりました小野寺です。雑誌の編集に携わるのは初めてで、至らないことばかりとは思いますが、これまでと同様に良質な記事をお届けできるよう努めていきたいと思っています。よろしくお祈りがいします。

小野寺仁人 (国立天文台・ハワイ)

二期目の編集委員を務めさせていただきます。月報は話題のバリエーションが広く、楽しい記事が多いと改めて実感しています。引き続き、さらに良い雑誌になるようにお手伝いできればと思っています。

嘉数次人 (大阪市立科学館)

天文月報は、様々な分野のホットな話題を分かりやすく解説した記事が多く、毎号楽しみにしていました。今期より編集委員を拝し、微力ながら皆様のお手伝いをさせて頂ければ幸いです。専門分野は、X線による超新星残骸の観測的研究です。至らない点多々あると思いますが、どうぞよろしくお祈りいたします。

勝田哲 (埼玉大学)

本年度より編集委員を務めさせていただきます。研究紹介や最新研究の解説記事が豊富な天文月報の編集に携わることにより、日本の天文学研究のさらなる進展と普及に貢献できればと考えております。よろしくお祈りいたします。

川中宣太 (京都大学)

今期より編集委員を務めさせていただく津村です。専門は赤外線観測天文学です。天文月報は、天文に関する最先端の様々な話題を日本語で読めるという点が大きな特徴だと思います。大学のゼミでも、天文を学び始めた学部生を対象に最初に天文学を本格的に学ぶ

教材として使わせていただいています。これからも天文学の裾野を広げるような雑誌となるよう務めていきたいと思っています。

津村耕司 (東京都市大学)

これまで読むばかりの天文月報でしたが、作成する側に回れるというのは大変光栄に思います。私は観測的宇宙論や機械学習を専門に研究しています。面白い話題を幅広く提供できるよう、精一杯頑張ります。

西澤淳 (名古屋大学)

2期目の編集委員を務めさせていただきます。専門は太陽です。最近の研究成果を異分野でもわかりやすくお届けできるよう努めて参ります。また若手の方々の成果を広めるお手伝いもできればと思っています。今期もよろしくお祈りいたします。

西塚直人 (情報通信研究機構)

編集委員二期目になりました。コロナ禍であらゆる物事が一変しなるとなくどんよりした世の中が続いていますが、天文・宇宙の記事を見てなんだか元気になれる、そんなふうにしていけたらと思っています。引き続きよろしくお祈りがいします。

秦和弘 (国立天文台・水沢)

2018年秋より編集委員を務めております。私の専門分野である系外惑星の記事を増やしていければと思います。同分野の方で記事を書きたい方、書いてくれるような人が近くにいる方、ぜひご一報下さい!

福井暁彦 (東京大学)

今期より編集委員を務めさせていただく仏坂です。重力波などコンパクト天体に関わる研究をしています。幅広い読者に楽しんでいただける記事を掲載することに貢献できれば幸いです。

よろしくお祈りいたします。

仏坂健太 (東京大学)

今季も引き続き編集委員を務めさせていただくことになりました。この2年間編集委員を仕事を通して自分の専門とは異なる分野の記事をじっくりと読む機会も多く、大変勉強になっています。あと2年間、天文月報をより魅力的な雑誌にできるよう微力ながら尽力いたします。どうぞよろしくお祈りいたします。

前原裕之 (国立天文台・岡山)

訃 報

会員の深津正鉄氏は2021年5月13日にご逝去されました。満91歳でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

編集委員会より

天文月報記事投稿用アップローダー

https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_submission/
(URLが変わっています。ご注意ください。)

■ログイン法

login: geppou passwd: toukou

■アップロードの仕方

アップロード画面にいったまず必要事項を埋めてください。

するとアップロードに進むことができます。ファイルが複数ある場合は「投稿フォームを増やす」ボタンを押してください。押すたびに欄が増えます。

1回あたり全部で最大50 Mbyteまで、個数は20個まで送信できます。(それ以上の巨大なファイルのアップロードは推奨されませんが、やむをえない場合は分割してお送りください)。

■注意

投稿者の個人の認証はcookieを利用しています。

したがってcookieを受け取らないブラウザでは使えません。

またフォームのチェックや可変個数のアップロードボックスはjavascriptを利用していますのでjavascriptが使えなければこのアップローダーは使えません。

その場合は従来どおり、toukou@geppou.asj.or.jpまでメールでご投稿ください。

■連絡先

アップローダーに関するご質問はtoukou@geppou.asj.or.jpまでお願いします。

(天文月報編集長)

天文月報記事ご執筆用テンプレート (SKYLIGHT, EUREKA, 天球儀)

ご執筆にあたりましては、日本天文学会HP内「天文月報」のページにあります「投稿用テンプレート」をご活用ください。

https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_template/

(URLが変わっています。ご注意ください。)

texで執筆される方はtexテンプレートをオンライン上またはダウンロードしてご利用ください。MSWordで執筆される方はwordテンプレートをダウンロードしてご利用ください。また、ご執筆の前に必ず「執筆マニュアル」をご一読ください。

https://www.asj.or.jp/jp/activities/geppou/author_manual/

(URLが変わっています。ご注意ください。)

texをご利用される場合は、あわせてreadmeもお読み下さい。

星空市場

[意見]

神武紀元は生きている

教師：……というわけで明治新政府は明治5年11月9日太政官布告を發し、現在使用している太陰曆〔太陰太陽曆〕を廢して太陽曆を採用し、來たる12月3日を新曆の明治6年1月1日と定める、また1年を365日12ヵ月に分かち、4年毎に1日の閏日を置くこととした。更に6日後の11月15日の太政官布告で西曆紀元前660年を元年とする神武天皇即位紀元（皇紀）が定められた。しかし上の置閏法はユリウス曆法なので、來たる1900（明治33）年は閏年になってしまう。慌てた政府は明治31年5月11日に次の勅令を出した。即ち、
明治天皇即位紀元年数ノ4ヲ以テ整除シ得ベキ年を閏年トス、但シ紀元年数ヨリ660ヲ減ジテ100ヲ以テ整除シ得ベキモノ中、更ニ4ヲ以テ商ヲ整除シ得ザル年ハ平年トス

と訂正した [1]。だから日本の曆は正式にはこれに基づいて編纂されており、数十年前までは理科年表にも西曆と皇紀が併記されていた。ところが内容はグレゴリオ曆（正式にはグレゴリウス曆）と同等（identical）なのに、そのことには全然触れていない。これは剽窃である。日本天文学会は日本學術會議を通じて「日本の曆はグレゴリオ曆法による」と明記した法令を国会で制定してもらうべきだ。
学生：よう分かりました。でも先生、なんでこれまでこの件がずっと放置されてきたんでっしゃるか？
教師：敗戦後のドサクサで、それどころじゃなかったんだ。

参考文献

[1] 青木信仰著：「時と曆」東京大学出版会、1982、p. 84

（佐藤明達 東京都葛飾区）

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2021

パスワード：雑誌コード（5桁の数字）と **vol114**（6文字）の計11文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

江草実美（委員長）、市川幸平、岩井一正、岩崎一成、小高裕和、小野寺仁人、嘉数次人、勝田哲、

川中宣太、津村耕司、西澤淳、西塚直人、秦和弘、福井暁彦、仏坂健太、前原裕之

令和3年6月20日

発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0801 新宿区山吹町332-6

株式会社 国際文献社

定価733円（本体667円）発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359（事務所）/ 0422-31-5488（月報） Fax: 0422-31-5487 振替口座00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <https://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2021年（本誌掲載記事は無断転載を禁じます）